

第6回西谷地区学校づくり検討委員会
会議概要

開催日時	令和6年(2024年)8月6日(火) 15:30~17:20
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】 17名 (欠席) 3名 【教育委員会事務局】 6名
次第・議事	1 開会 2 会議の成立及び公開について 3 報告(1) 保護者説明会・意見交換会の動画配信・アンケートについて (2) 西谷小学校からの意見について 4 議題(1) 特認校制度の令和7年度受入対象者について (2) 意見書(案)について (3) 当面のスケジュール案 (4) その他 5 閉会
会議の主な結果	意見書案及び募集要項の内容や文言について精査した。修正を反映させたものを提出することで意見がまとまった。
会議録(概要)	
委員長	【1 開会】 【2 会議の成立及び公開について】 本日、20名の委員のうちの17名の出席、傍聴には2名来ていただいている。非公開の内容の議事はないので公開で進めていく。
事務局	【3 報告】 (1) 保護者説明会・意見交換会の動画配信・アンケートについて 先月の報告の後、まだ届いてない人がいるのではということで、配信期間とアンケート受付期間を延長したが、結果としては先月お伝えした時と変わらずで、増えなかったことをご報告する。 アンケートフォームでの回答が4件、紙面でのアンケートはゼロ、動画の視聴者数は、約20件であった。内容については、先月報告済である他、詳細をメールで委員の皆様へ配信済みであるので省略する。
事務局	(2) 西谷小学校からの意見について 西谷小学校・中学校ともに、保護者説明会と同日の6月19日にそれぞれ説明を行ったが、その後、小学校で行われた職員会議で出た意見を、資料1で報告させていただく。3ページ。 ～資料1を説明～ この意見を踏まえて、議題1(1)特認校制度の令和7年度の対象者についてでまた説明をさせていただく。

委員	職員には、私の方から、こういう会議の内容は常々伝えている。 資料１では伝わらないかもしれないが、どの職員も前向きには考えてくれた。どうすればできるのか、ということ。これからやっていくにあたり、不安などを隠して我慢したままやっていくということは、実際に子どもたちに携わるのに、それはよくないということで、しっかりと考えて意見を出してくれた。こういうものを踏まえて、またここで議論いただいて、結論を出していただければと思う。
事務局	【４ 議題】 （１）特認校制度の令和７年度受入対象者について 資料４ページ。 先ほどの教職員のご意見を受けて、前回の検討委員会から変更しているところを色塗りしている。３ 募集時期と、４ 募集学年である。 ３ 募集時期について ・前年度の１学期中に募集を行う。 ・令和７年度の入学予定者については、令和６年１０月から１１月で募集を行う。 ４ 募集学年について ・令和７年度：小学１年生とその兄弟と、中学１年生から３年生 ・令和８年度以降：小学１年生から中学３年生 という形で修正している。それ以外の項目については、前回協議内容と変わらない。 実際に特認校制度を運用していく際には、学校と調整しながら進めていくことになるので、これからも若干修正が入っていくかもしれないが、この方向で進めていく予定である。
委員長	前回協議内容からの変更点を提示していただいた。質疑応答があればお願いします。
副委員長	先生方も時間を割いてご意見くださり、本当にありがたい。地域や保護者では計り知れないような学校現場の大変さがあると思うので、具体的にぜひ教えていただきたい。
委員	どこの学校も、校区があって、その校区の中にいる子どもたちが学校へ来る。ということは、その校区の状況をもって、いろんな学習指導なり生徒指導なりをやっているということである。ところが、離れた所から来る子がいると、西谷のあそこにある・・・など言えない。全部説明してあげないといけない。今まで習ってきた方法や進度、そういったものも全部踏まえてやっていかないといけない。西谷にその子は住んでないので、少しずつこの地域に慣れていってもらわないといけない。 周りの子はきっと、新しい友達が来たら、喜んで寄っていくが、その子はどういう子かわからないので、寄ってこられることが良いのか良くないのかということも考えて、その子が円滑に学校に馴染むように、一つ一つやっていかないといけない。 この学校はこども園から一定人間関係を持ったまま上がってくる。そこに違う所から来る子が入るということで、いろんな手立てが必要になってくる。

委員	大人の数は限られているので、今いる子どもたちに時間をかけてやっているところが今までのように行くかどうか、全体を見通してやっていくという今まで経験したことがないようなところに突入していくのかなという感じである。 中学校は卒業したら、次の進路に向けて西谷地区から外へ出て行く形になる。子どもたちは限られた人数で生活しているので、物を言わなくても、お互い通じ合うという良い部分があるが、外へ出たときに、知らない人とコミュニケーションを取っていくということは非常に大きな課題である。部活動とか、何か行事で外に出て行ったときに、スムーズにコミュニケーションができるかという、課題があるかなと感じている。そういう意味で、人数が増えて、その中に普段いなかった友達が入ってくることは、お互いの刺激になるので、プラスの部分かなと思う。 現在、西谷中学校では、時間割で空いている先生がいろんな意味で支援に入っている。急激に人数が増えた場合は、今のような手厚い体制が難しくなってくるかもしれない。 西谷の子どもたちの良いところは、外から来た子どもたちに対しても、違和感なく接してくれるところである。そういう優しさがあって、学校に行きにくかった子が、この環境の中で、みんなと関係性を作って、楽しく過ごしているようなことも実際にある。 学力で言うと、切磋琢磨が足りず、「これぐらいでいいかな」みたいな感覚がもしかしたらあるのかもしれない。一定の人数がいたら、良い意味で競い合い、良い刺激になって、学びのプラスにもなるかもしれない。 あとは、球技等、一定の人数がいたら、できることも増えてくるかもしれない。 これらは考え次第である。別の視点で言うと、今の西谷の環境であれば、実験しても必ず道具に触れる機会があったが、40人学級になったら、それが見ているだけになる可能性もある。どのあたりの人数を適正と見るかが課題である。
委員長	受け入れ側の学校のご意見を取り入れつつ、地域としてはできるだけたくさんの子どもに西谷小・中学校に来てほしいという思いが強い。こういった調整をしながら、初年度はどうするかであるが、他に意見はあるか。
委員	就学条件4番、「学習や活動ができる心身の状況にある児童生徒」というところは、不登校とかそういう子どもたちは駄目というふうに私には取れるが、どう理解したらよいか。
事務局	こちらの項目は、他市事例を参考にしている。 例えば、西谷小・中学校であれば、まず通学の問題があり、ちゃんと通えるのかとか。児童生徒本人に西谷小・中学校で通い続けてここで卒業したいという思いがあるのかとか。そういったことが確認できるようにという意図で入れている。
委員	この書き方だと、ちょっと精神的に不安定とか、不登校の子は駄目というふうに取りられないかなと思うので、少し書き方を変えた方がいいかと思う。

事務局	表現を工夫する。
委員	この文面がそのまま、募集要項で知らされるのか。
事務局	書き方は工夫するが、概ねこのような内容の方向性で考えている。チラシはもっと碎けた形で考えているが、きっちり書くところは書こうと考えている。
委員	ちょっとハードルが高い学校のような印象を受けた。就学の可否について、面接試験を通らないと入れないみたい。もう少し特別感がない方が良いと思う。
事務局	特別感が出ないよう表現を工夫する。
委員	来年度は完全複式になる年である。2 学年一緒に勉強は嫌だと言われると、合わないとなる。これは心身の状況ではないかもしれないが、やはりそういうことも、了承の上で来ていただかないといけない。1 年生だけど、2 年生の中身の勉強もちょっと出てくるよとか、2 年生だけど 1 年生の内容も出てくるよっていうこと理解したうえで西谷に来たいと思ってもらわないと。蓋開けてみたら、「いや、そんなことは、ちょっと自分の考えになかった。戻ります」と言われても困るから、やはりきっちと学校の状況というのは説明して、わかっていただいた上で、そういうニュアンスできちとこの就学条件のところに示し、説明もしていきたい。
委員長	貴重な意見である。複式学級であるかどうかというのは、募集した段階でわかるのかどうか。募集段階ではっきりと複式学級だということであれば、書いていただくということも必要なと思う。募集人数の関係で、複式にならないようなことも起こるというのも今ご意見の中にあつたように思うが、どうか。
事務局	1 年生と 2 年生の複式か、2 年生と 3 年生の複式かなどで条件が変わってくる。複式学級の可能性があるというところも理解してもらった上で入ってもらうことが必要だと思うので、面談の際や募集要項等で、周知を図っていく。
副委員長	募集人数はすごくデリケートな問題である。既存の子どもたちの集団のよさを壊さない程度に外から入っていただくというその絶妙な判断というか。そういうところは学校で判断されるのか。
事務局	学校と教育委員会とで相談しながら調整していく形になる。
副委員長	募集学年について、令和 7 年度は小学校 1 年生とその兄姉ということだが、やはり新 4 年生の女の子のことがとても気になっている。女の子 1 人だけの学年なので、もしチャンスがあるならば少しでも早く仲間を迎えてあげたいと思うが、どうか。

委員	完全複式にまだ一度もなっていない。来年度初めてそうなる。なった中で、時間割がどう組めるのか、どういうふうに職員を割り当てるのか、とか。 今も半分、中学校のような教科担任みたいになっている。例えば、一つの学級において、一方の学年の国語は担任が担当するが、もう一方の学年は違う教員が担当するとか。今は１年生と６年生が単級なので、２学年一緒にやっている教科とそうでない教科があるが、完全複式になると、もうほぼほぼ教科担任みたいな形になっていく。それをまだこの職員は誰も経験していないわけである。よその先行事例を聞きながら、毎年カリキュラムを考え、それを見直し、教科書が変わる度に、またそれを変え、手探りで進めている。 新１年生は、既にこども園に通っていて人間関係もあり、ひょっとしたらそのまま上がりたいと思っているが、やむなく自分の校区の学校に行かされているのかもしれない。自分の校区に戻ったら、同じ幼稚園の子、保育所の子で固まる中に、違うところから入っていかないといけない。園小中の合同運動会やいろんな行事もやっているの、こども園からならある程度イメージできた上であがってこられるという良さがあるのだろうと、小学校職員も思っている。 ただ、いっぺんに他の学年もとなるとなかなか難しい。今言われたように、女の子が１人だけの学年があることもわかっていて、その子が１人のまま、５年生で自然学校・６年生で修学旅行に行くことになるのを何とか避けられないかとは考えている。初年度はこうだが、次年度は学年を広げる。それだったら何とかできるのではないかという考えに至ったわけである。 前回にも話したが、隣接する学年と一緒に行事ができていけば、１人になることを避けられる。それを何とか実現しつつ、この制度も使いつつというような、二本立てでやっていけたらいいかなとは考えている。
委員長	いろいろとまだ不安な点が、生みの苦しみというか、なかなか課題はたくさんあるわけだが、とにかく進めていこうという思いは皆一緒ではないかと思う。特に学校現場の皆さまは大変だと思うが、よろしく願いたい。
事務局	(2) 意見書案について 資料 3、5 ページ。 １章 西谷地区学校づくり検討委員会の設置 ２章 西谷地区における教育環境の適正化に向けた取り組み ３章 本委員会における結論 ～資料３を読み上げて説明～ １３ ページ以降の資料はこれまでに配布していた資料になる。 ３ 番、西谷地区学校づくり検討委員会の委員名簿として、令和 5 年度と令和 6 年度の名簿の構成を記載している。

副委員長	12 ページの「本委員会における結論」①「西谷地区外から子どもたちが西谷小・中学校で学びたいとなるような魅力ある教育活動の充実、努めてください」について、副委員長から資料をいただいております、説明していただく。 今日、資料に差し込ませていただいた『西谷の教育 12 年間の 3 本柱』ということで、この資料は、まち協の未来の学校を考える部会で取りまとめさせていただいている。地域や保護者、またこれまで検討委員会で議論させていただいた内容を含めて、こういう 3 本柱というのを作ってはいかがかなということで、整理をさせていただいた。 ～資料に沿って説明～ すでにやってくださっていることなので、何も新しいことを言っているわけではないが、南部の方々に宣伝するときに、こういう柱がある方がアピールになるのではないかなと思った。ただこれはちょっと勝手にこちらで集約したところがあるので、ぜひ忌憚ないご意見をいただきたい。
事務局	ありがとうございました。 意見書という形のところもあって、なかなかそこまでの具体的な細かいところを載せるのが難しく、①の表現をさせていただいた。 この意見書については、今回いただいたご意見を基に修正し、今後、教育委員会に提出していただこうと思っている。
委員長	意見書案について説明をいただき、そして副委員長からも説明をいただいた。まず意見書についてご意見をいただきたい。本来であれば、自分たちでこの意見書案を作らなければならないところだが、事務局に大変なご負担をいただいて、ここまでまとめていただいた。 第 1 章では西谷小・中学校、西谷の長い歴史や、宝塚の中での地理的な位置付けなどをご理解いただけたと思う。長い歴史の中で、ちょうど我々はこういう少子化の大きな波の中に居て、この中で委員会が立ち上がってきたということを書いていただいた。 第 2 章では、大きな意味で、市で適正化規模など方針を出していただけたけれども、なかなかそこに我々の地域は入っていけない状況があったということがよく分かるのではないと思う。 学習会や勉強会、或いは、未来の学校を考える会では視察もいただき、何が西谷にとって必要であるのかなということを検討し、いろんな関係で意見を求める会とか開催し、またインターネットでも、特に今、学校に子どもたちが居る保護者の皆さまの意見を聞いていただいて、制度として求めていくものについては特認校制度がいいのではないかなという結論を導き出したということ、順を追って、時系列的に導き出していただいた。 第 3 章が意見書としては、我々委員会として導き出してきた結論である。 最初に書かれていたように、本委員会の位置付けの中で、「西谷地区の特色を活かした教育の推進」という言葉が、この委員会の大きな役割と言える。そういったことを含めて、結論の特に①「西谷地区外から子どもたちが、西谷小・中学で学びたいとなるよ

	うな、魅力ある教育活動の充実に努めてください」というのが我々が思っていることではないかなと思うし、先ほど副委員長にも、3本柱として説明していただいた。特に、最終の結論のところについて、ご意見をいただき、これをまとめていきたい。 「ふるさと科」ということだったが、中学校では『西谷を知ろう』ということで、ある学年では、西谷の次は宝塚市、兵庫県、日本と広げていくというふうに3年間見通した調べ学習を考えている。 教科横断的な学びをする中で、このリストの後ろにつけていただいている、地域の人材を提供・協力いただけることは大きな財産である。こういったものを活かしながら教育が進められたらいいかなと思う。 それと、この資料の12ページに書かれている、今委員長がおっしゃられた「①西谷地区外からの子どもたちが西谷小中で学びたいよう、魅力ある教育活動の充実に努めてください」というのはもっともである。やはり何らかの期待を持って子どもたちは、西谷にやってくると思う。その期待に沿えるように、我々教職員も努力しながら、当然教育活動を進めていこうと思う。 GIGAスクール構想のタブレットや小学校で英語の教科化などは、私より上の年代の方のときはなかった。そういった新たな教育課題とかに立ち向かっていけるようなスキルを教員は身につけていかないといけない。大きい学校なら教科担当が複数いて相談しながらできるが、本校では1人ずつしかいない。当然市内との交流もあったり、いろんなところで学んではいただいているが、なかなか簡単に相談ができなかったりで、そういう弱い部分がある。 また、生徒会活動を指導したりとか、生活指導をしたりとか1人で持たないといけない校務分掌の数が多い。そういった意味でも、決して小さな学校だから楽である、ではなく、小さな学校だからこそ、学ぶ姿勢が大事で、負担も大きい。そういったことも踏まえて、人材の配置等、市全体で考えていただけたらありがたい。 この制度がうまく進んで「西谷に来てよかった。次、おたくのお子さん下見に行ってぜひ学んでくださいよ」みたいな広がりがあるような形にいただけたらありがたい。
委員	第3章の留意点の①。 子どもたちが西谷小・中学校で学びたいような魅力ある…と書いていただいた。これはここに載せることではないが、当然「教職員が勤めたいような学校」に西谷小・中学校がなっていかなくてはと常々思っている。 「複式って何だろう」と思っている市内の教員がたくさんいる。「なんか2学年持たないといけないから大変らしい」とかね。でも、確かに大変なことはあっても、その中に教師としての学びもあるし、良い事もたくさんある。いろいろな場で私も伝えていっているが、さらにそういうふうに伝えないといけないなと、改めて感じた。 それから②の2行目、「学校現場に過度な負担がかからないように、教職員の意見も聞いて取り組んでください」という意見も入れていただいて、ありがとうございました。 教職員にいろいろな思いがあって、今の子どもを大事にしないではいけないし、来る子がいたらその子も大事にしないではいけないしという中で、やれることをいる人間でや

	っていかなければならない。「前向きにみんな考えている」と先ほど言ったが、それは間違いない。また意見を聞いていただきながら、せっかく導入するのなら良い制度にしていけないといけない。ここにこういうふうに入れていただいて、本当にありがとうございます。 それから副委員長にまとめていただいた分、毎年いろいろな人材の提案をいただいて、今回のちまき作りやゆめ市場、ダリア園に行くことができた。 教科っていうと教科書がないといけないので、表現としては「西谷ふるさと科」みたいな感じで、西谷のいろんな資源を活かした教育を進めるということかなと思う。どこの学校でも学級園があり、そこで育てたものを子どもが観察するというのがあるが、ここではそれプラス、周りを見たらいろんな畑がある。また、ここは近くの川に行くと、いろんな魚がいていろんな虫がいて、それはよその学校ではないことである。 また自然の家も近いので、いろんなコラボレーションをしながら今までもやってきたが、これからも地域の方々とともに教育を進めていくということは大事なことで、学校としてもありがたい。週 1 時間設ける、教育コンペに応募するなどは難しいかもしれないが、いろいろ中身についてはまた相談させていただきながら、「今年はこういうことを中心に、西谷の資源を使ってやりましょう」みたいな感じができていったらいいと思う。
副委員長	なぜ慌ててこれを出したかという、今の園長・校長というこの 3 人のゴールデンメンバーがいるからこそ、うまくこの 12 年間の有機的な流れがあった。管理職が変わったり、熱心な先生がいなくなったりすると、ガタガツとその大事なものが変わってしまう心配がある。教育の内容がいずれにしても非常に重要なので、何かしら意見書にそのあたりを追記等、差し込んでいただける可能性がないかということである。
委員長	この委員会で、そこまでをちょっと議論するのはなかなか大変であるが、学校運営協議会などで是非そういったことについて議論していただけたら大変嬉しい。 ただ、この結論の 1 行の中に、今出していただいている資料にあるような、特色ある西谷の小・中学校づくりというのは本当に大事だということを、何らかの形で生かせたらと思うので、その取扱について皆さんの意見を聞かせていただきたい。
委員	意見書の取扱について、今日皆さんで合意するわけだが、これから 8 月 23 日の教育委員会に向けて提出するので、それまでは公表を控えるべきであると思う。ちゃんと市に合意を頂いてからの公表と思う。
委員長	今まで議論してきたことは公開しており、議事録も公開している。意見書としては、今日の合意を持ってまとめて、市に提出したら公になる。
委員	副委員長に提案いただいた資料、これについては、まだ職員にも共有できていない。文言あたりでも、ちょっとこう直したらどうかというところもあるので、意見書にこれを付帯してつけるのではなく、今後、募集要項とかそういったもので、募集するときの 1 つの材料として、西谷としては、このような形で西谷の資源を活かした教育を進めていく

	んですよ、少ない人数だけどお互いにコミュニケーションを取って授業に取り組んでいくんですよ、ICTもみんな使っているいろんなことを駆使しながらやっていきますよというようなことを伝えていったらいいのかなと思う。 小学校では、「ガイド学習」といって、先生が両方の学年を見ないといけないからその間、子どもがコミュニケーションをとりながら授業を進めている。大きな学校でも先生が横で見えて子どもが授業を進めていくというのができたらいいと思う。それをもう西谷は先に取り入れてやっている。このようなことも 1 つの特色である。そういうことを経た上で、またこの資料も教職員に共有して参考にさせていただこうと思う。
委員長	「西谷の資源」という言葉が出た。「西谷の資源を活かした特色ある教育」という文言ちょっと加えていただけたら。
委員	今委員長が言われた言葉をこの①に加えて、「子どもたちが西谷小・中学校で学びたくなるような、西谷の資源を活かした魅力ある教育活動の充実」とすれば、今日副委員長に説明頂いた資料の趣旨も、そこに入っていくと考える。
委員長	そのような形で修正をお願いしたい。 他にご意見ないようであれば、この意見書案を 1 つのまとめとして、教育委員会の方に、提出させていただきたいと思うが、ご了解いただけるか。 ～一同賛成～
事務局	(3) 当面のスケジュール案 学校づくり検討委員会のメンバーから教育長に意見書を提出していただこうと考えている。8 月 16 日で今のところ調整している。 教育長に意見書が提出されたら、その意見書を 8 月 23 日の教育委員会に報告をする予定である。 意見書を受理したら、9 月 17 日の教育委員会に、西谷小・中学校における小規模特認校制度導入の実施計画を作成して報告をする予定である。 また、意見書は、8 月 23 日に教育委員会に提出された段階で、市のホームページに公開する予定である。 意見書の最後に、この意見書の作成に携わっていただいた、議論に携わっていただいた方を名簿として記載しており、意見書を掲載する時点で、こちらホームページに公開を考えているが、公開について問題はないか。 ～一同問題なし～
事務局	では、このままで意見書が提出された時点でホームページに公開させていただく。 10 月 1 日発出の来年度新小学 1 年生対象の就学時健康診断のお知らせに、西谷小・中学校の特認校制度導入のお知らせを同封して、周知を考えている。 あと、広報たからづかで 10 月号に掲載して周知を行おうと考えている。 10 月から 11 月を募集期間と考えている。

委員長	今後の委員会の開催の時期等について、また調整をいただくことになるかと思うが、それまでの件については、委員が関与するところはない。 教育の内容については、先ほど申し上げたように、学校運営協議会で議論していただくことが非常に大事ではないかなと私は思っているが、学校運営協議会の方、そのあたりはどうか。
委員	教育の中身については、やはり学校の方針がまず固まった上で、それについて、それでよろしいかというような検討に入る場所が運営協議会であると思う。まずは学校の職員の皆さんで検討していただく、計画を立てていただくということが重要なのかなと認識している。 もちろん年間のカリキュラムなりを立てていただいた上で、その計画が適切かどうかというところはその協議会の中で諮っていく必要が大いにあるが、まずはやはり基本は学校の先生方で、という思いがある。
委員長	そういった認識を持ちつつ、西谷の魅力が発信できるような、より良い教育内容が検討されていけば大変嬉しい。
事務局	10月～11月は募集期間であるので、第7回の検討委員会は、募集結果の報告も兼ねた上で、募集期間も学校と調整させていただいて、もし11月の中旬までに締め切るということであれば、11月の下旬ごろの開催、11月いっぱい募集するということであれば、12月の下旬で調整させていただこうと思う。
委員	10月の通知に同封するお知らせについては、募集要項がそのまま載る感じが。
事務局	このままではなく、ポップなやさしい感じの表現チラシを作り、具体的な詳細内容はホームページを見ていただく形で考えている。
委員	教育委員会で全部作成してくださるのか。
事務局	そうである。
委員	ここでは検討しないということか。
事務局	そうである。これに関しては市で検討して作成するものである。
委員	了解した。母子小学校の募集要項では「以下のことは必ず守ってください」として、何点か書いてある。その方がわかりやすいのかなと思うので、わかりやすく願います。

	また、母子の要項にはこの(4)の文言はなかったので、そのあたりも見ていただきたい。なかなかこういう市の書類は文字ばかりで分かりづらいので、もう少し噛み砕いた感じで書いていただきたい。
事務局	特別感がないように、また噛み砕いたわかりやすい形で、表現させていただく。
委員	西谷に興味がある人は、学校見学したいと必ず希望があると思うが、それについてはどうか。
事務局	広報にも、「学校見学などをご希望される方はまずご連絡ください」というような文言を載せる予定である。 ここに母子の募集要項がある。このように写真をたくさん載せて、文体もやわらかめ。私たちもそうしたいと考えている。 ぜひ皆さんからも保護者さんが顔出し OK とお許しいただいた上で、子どもたちの表情や、それこそ特色がわかりやすい写真があれば是非提供をお願いしたい。
委員長	わかりやすい募集要項・チラシの作成をお願いします。 全体を通じてのご意見、何かあるか。
委員	特認校制度についてということではないが、例えば、西谷中学校の修学旅行費は 8 万円ぐらいかかる。頭割りする人数が少ないためである。卒業アルバムが 1 万 5,500 円ぐらい。街中の学校は、8,000 円かそれぐらい。特認校云々だけの問題でなく、何かこう、子どもたちのためにたとえわずかな金額でもいいので支援していただけるような仕組みとかを市をあげて全体で考えていただけたらと思う。
委員	今のお話にあったように、卒業アルバム代とかいろんな面で、南部ではこのぐらいの金額だけど、北に行くとこのぐらいの金額がかかってくるというのは、どの段階でお知らせされるのか。
事務局	通知に書くのは難しいので、面談の機会等での説明になってくるかと思う。
事務局	面談で、「本当にいいですか」と確認する時に、こういうこともありますよって説明しとくのは大事だと思う。
委員長	本当に貴重なご意見いただいて、実りある会議ができた。会議はこれで閉じさせていただきます。
事務局	次の会議まで少し空いて、11 月下旬か 12 月かというところになる。 本日は長い時間、皆様、誠にありがとうございました。